



カスタム検索

検索

▶ ページの探し方 ▶ カテゴリーから探す ▶ 府庁の組織から探す

文字サイズ: 縮小 標準 拡大

トップ

くらし・住まい
まちづくり人権・男女
共同参画福祉・
子育て教育・学校・
青少年

健康・医療

商工・労働

環境・
リサイクル農林・
水産業都市魅力・
観光・文化都市計画・
都市整備防災・安全・
危機管理府政運営・
市町村

[ホーム](#) > [教育・学校・青少年](#) > [社会教育・教育コミュニティ・生涯学習](#) > [教育コミュニティづくり推進事業\(学校支援地域本部・おおさか元気 はじめての方へ サイトマップ 広場・家庭教育支援\)](#) > 河内長野市立美加の台中学校区の学校支援の取組み

河内長野市立美加の台中学校区の学校支援の取組み

更新日: 平成26年7月1日

河内長野市立美加の台中学校区(美加の台小学校)学校支援地域本部の取組み



■ひとことと言えばこんな取組みです

- ★コーディネーターが、学校とボランティアのニーズを的確につないで、学校支援の仕組みが確立している。
- ★ボランティアが集う研修・交流会を定期的に行い、ボランティア活動に対してのモチベーションの維持・向上を図っている。

■ここがポイントです

1 学校が気軽に地域に依頼できる関係

・2年生の生活科で、校区のことを調べ、「キラリ☆まっぷ」を作っている。2年の担任より、校区に住む、いろいろな得意技を持つ人(キラリさん)を紹介してほしいと、学校支援コーディネーターに依頼があり、今回の取組みが実現した。

2 学校のニーズと地域の実情のマッチング

・はじめ学校は、児童がキラリさんのお宅を訪問することを考えていたが、コーディネーターが地域人材に声をかけると、お宅に訪問するより、学校で実演をする方がいいとの声が多くあることが分かった。学校としては、わざわざ来ていただくのは負担が大きいと考えてのことだったが、実際は違っておりコーディネーターの働きによって当初の計画を修正し、学校と地域のニーズをかなえることができた。

・コーディネーターが、地域人材を選ぶにあたり、それぞれの名人技と児童の興味とのマッチングや、児童(2年生)へわかりやすく伝えられることができるかなどを考慮して、当日参加可能な10名にきていただいた。

■2年生活科「キラリさん探検しよう!」のようす

日時

平成26年5月30日(金曜日) 9時30分から11時10分

場所

河内長野市立美加の台小学校

活動内容

○学校(子ども)と地域人材をつなげる工夫

【学校の学習計画と事前指導】

・学校では、わざわざ教えに来てくれた地域の人たちへの礼儀や、感謝の気持ちを伝えることが大切だと考えている。活動の日を迎えるまでの事前指導(日頃の指導と併せて)をしっかり行った。はじめとおわりに代表のあいさつがしっかり行われ、話を聞く態度もできていた。

・「近くに住む名人」という発想が子どもたちを活動に魅きつける上で効果的であった。自己紹介で、「3丁目の〇〇です。」とか「〇〇マンションに住んでいます。」と聞くと、「ほくと一緒に！何階？」と子どもたちはすぐに声をかけていた。この日の取組みを機会に、交流がはじまることが期待できる。

・名人に教えてもらうにあたり、児童手作りの名刺(顔写真入り)を手渡すことから始めていた。お互いの距離感を近づけることや、今後のつながりもできるなどよい工夫だった。



地域の方々(キラリさん)からの自己紹介



児童から手作りの名刺を、キラリさんに手渡す

・教えてもらう時間は短く設定されていて、もう少し教えてほしいと思うところで終了となった。2年生の発達段階や、教えてもらった児童それぞれが、教えてもらったことに責任を持って、ほかの児童に伝えることもめあてとしており、次の活動につなげるように考えられている。



カブトムシの育て方の説明を、真剣に聞く



ペーゴマは、心棒がないので糸を巻くのが大変



日本舞踊は、扇のいろいろな使い方から教えてもらう

〇(キラリさんの)感想と今後に生かすふりかえり

・学習のあと、別室で地域人材ひとり一人から感想を聞く場を設けていた。ほとんどの方が、子どもが真剣に聞いてくれたことに満足されていた。

・今日のために、作品の準備や説明の仕方を練習をするなど、関わってくれた地域の方々には学校支援に対して熱意を持っていることが感じられた。

・次回、同じような取組みをする場合についての改善点も出し合い、コーディネーターが次回からの取組みに生かすデータとしていた。

・あるボランティアの方が、移動中に、他の学年の先生に呼び止められ、野菜の栽培の相談を受けておられた。そのことが反省会で話題に上り、別のボランティアの方からゴーヤの苗を提供してもらえる話に発展するなど、日頃からの学校と地域の関係性のよさがうかがえた。



校長先生、コーディネーターを交えて反省会を行う



職員室の前に、ボランティアさんの写真を掲示

このページの作成所属

[教育庁 市町村教育室地域教育振興課](#) [地域連携グループ](#)

[1つ前のページに戻る](#)

[このページの先頭へ](#)

[お問い合わせ](#) [ユニバーサルデザインについて](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [このサイトのご利用について](#)

大阪府

(法人番号 4000020270008)

本庁 〒540-8570

咲洲庁舎 〒559-8555

大阪府中央区大手前2丁目

大阪府住之江区南港北1-14-16

(代表電話)06-6941-0351

(代表電話)06-6941-0351

[大阪府庁への行き方▶](#)

© Copyright 2003-2017 Osaka Prefecture, All rights reserved.



カスタム検索

検索

▶ ページの探し方 ▶ カテゴリーから探す ▶ 府庁の組織から探す

文字サイズ: 縮小 標準 拡大

トップ

くらし・住まい
まちづくり人権・男女
共同参画福祉・
子育て教育・学校・
青少年

健康・医療

商工・労働

環境・
リサイクル農林・
水産業都市魅力・
観光・文化都市計画・
都市整備防災・安全・
危機管理府政運営・
市町村

[ホーム](#) > [教育・学校・青少年](#) > [社会教育・教育コミュニティ・生涯学習](#) > [教育コミュニティづくり推進事業\(学校支援地域本部・おおさか元気 はじめての方へ\)](#) > [サイトマップ](#)
[広場・家庭教育支援](#) > 河内長野市立美加の台中学校区の学校支援の取組み

河内長野市立美加の台中学校区の学校支援の取組み

更新日: 平成26年7月1日

河内長野市立美加の台中学校区(美加の台小学校)学校支援地域本部の取組み



■ひとことと言えばこんな取組みです

- ★コーディネーターが、学校とボランティアのニーズを的確につないで、学校支援の仕組みが確立している。
- ★ボランティアが集う研修・交流会を定期的に行い、ボランティア活動に対してのモチベーションの維持・向上を図っている。

■ここがポイントです

1 学校が気軽に地域に依頼できる関係

・2年生の生活科で、校区のことを調べ、「キラリ☆まっぷ」を作っている。2年の担任より、校区に住む、いろいろな得意技を持つ人(キラリさん)を紹介してほしいと、学校支援コーディネーターに依頼があり、今回の取組みが実現した。

2 学校のニーズと地域の実情のマッチング

・はじめ学校は、児童がキラリさんのお宅を訪問することを考えていたが、コーディネーターが地域人材に声をかけると、お宅に訪問するより、学校で実演をする方がいいとの声が多くあることが分かった。学校としては、わざわざ来ていただくのは負担が大きいと考えてのことだったが、実際は違っておりコーディネーターの働きによって当初の計画を修正し、学校と地域のニーズをかなえることができた。

・コーディネーターが、地域人材を選ぶにあたり、それぞれの名人技と児童の興味とのマッチングや、児童(2年生)へわかりやすく伝えられることができるかなどを考慮して、当日参加可能な10名にきていただいた。

■2年生活科「キラリさん探検しよう!」のようす

日時

平成26年5月30日(金曜日) 9時30分から11時10分

場所

河内長野市立美加の台小学校

活動内容

○学校(子ども)と地域人材をつなげる工夫

【学校の学習計画と事前指導】

・学校では、わざわざ教えに来てくれた地域の人たちへの礼儀や、感謝の気持ちを伝えることが大切だと考えている。活動の日を迎えるまでの事前指導(日頃の指導と併せて)をしっかり行った。はじめとおわりに代表のあいさつがしっかり行われ、話を聞く態度もできていた。

・「近くに住む名人」という発想が子どもたちを活動に魅きつける上で効果的であった。自己紹介で、「3丁目の〇〇です。」とか「〇〇マンションに住んでいます。」と聞くと、「ほくと一緒に！何階？」と子どもたちはすぐに声をかけていた。この日の取組みを機会に、交流がはじまることが期待できる。

・名人に教えてもらうにあたり、児童手作りの名刺(顔写真入り)を手渡すことから始めていた。お互いの距離感を近づけることや、今後のつながりもできるなどよい工夫だった。



地域の方々(キラリさん)からの自己紹介



児童から手作りの名刺を、キラリさんに手渡す

・教えてもらう時間は短く設定されていて、もう少し教えてほしいと思うところで終了となった。2年生の発達段階や、教えてもらった児童それぞれが、教えてもらったことに責任を持って、ほかの児童に伝えることもめあてとしており、次の活動につなげるように考えられている。



カブトムシの育て方の説明を、真剣に聞く



ペーゴマは、心棒がないので糸を巻くのが大変



日本舞踊は、扇のいろいろな使い方から教えてもらう

〇(キラリさんの)感想と今後に生かすふりかえり

・学習のあと、別室で地域人材ひとり一人から感想を聞く場を設けていた。ほとんどの方が、子どもが真剣に聞いてくれたことに満足されていた。

・今日のために、作品の準備や説明の仕方を練習をするなど、関わってくれた地域の方々には学校支援に対して熱意を持っていることが感じられた。

・次回、同じような取組みをする場合についての改善点も出し合い、コーディネーターが次回からの取組みに生かすデータとしていた。

・あるボランティアの方が、移動中に、他の学年の先生に呼び止められ、野菜の栽培の相談を受けておられた。そのことが反省会で話題に上り、別のボランティアの方からゴーヤの苗を提供してもらえる話に発展するなど、日頃からの学校と地域の関係性のよさがうかがえた。



校長先生、コーディネーターを交えて反省会を行う



職員室の前に、ボランティアさんの写真を掲示

このページの作成所属

[教育庁 市町村教育室地域教育振興課](#) [地域連携グループ](#)

[1つ前のページに戻る](#)

[このページの先頭へ](#)

[お問い合わせ](#) [ユニバーサルデザインについて](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [このサイトのご利用について](#)

大阪府

(法人番号 4000020270008)

本庁 〒540-8570

咲洲庁舎 〒559-8555

大阪府中央区大手前2丁目

大阪府住之江区南港北1-14-16

(代表電話)06-6941-0351

(代表電話)06-6941-0351

[大阪府庁への行き方▶](#)

© Copyright 2003-2017 Osaka Prefecture, All rights reserved.